

NPO 純正律音楽研究会会報 ～2017年11月発行～

ひびきジャーナル



〒168-0072 東京都杉並区高井戸東 3-2-5-102 Tel:03-5317-0291
Fax:03-5317-0289 e-mail:puremusic0804@yahoo.co.jp

発行日 平成29年11月8日
発行責任者 NPO 法人 純正律音楽研究会
編集 相坂政夫

No.54



朝夕冷え込む季節になりましたが、会員の皆様如何お過ごしでしょうか。
9月16日山崎製パンクリエーションセンターでのコンサートには多くの方々にご来場いただき誠にありがとうございました。

11月は、ハープの三宅美子さんのご尽力により、滋賀県近江八幡の西山義巳様主催で11日土曜日、安土の文芸セミナーヨで純正律音楽コンサートが開催されます。また、25日土曜日には三宅さんの母校、駒場の松桜会主催、東京オペラシティ リサイタルホールでコンサートが開催される予定です。

来年の1月27日「New year concert」地下鉄丸ノ内線、「茗荷谷駅」から徒歩5分の「ラリール」にて開催いたします。今回は小さなホールになりますので、昼の部、13時30分開場 14時開演、夜の部、17時30分開場 18時開演と2回公演になります。

入場料は昼夜とも3,500円、会員特別価格3,000円、各部50名様限定となりますので、お早めにご予約頂ければ幸いです。

今後とも純正律音楽研究会をよろしくお願ひ申し上げます。

色々なご縁

洗足音楽大学教授・ヴァイオリニスト
NPO 法人 純正律音楽研究会 代表
水野佐知香

あっという間に冬物が必要な季節が来てしまいました。秋をもっと楽しめたかったので残念です。会員の皆様！体調いかがですか？お風邪など大丈夫ですか？

この11月には、ハープの三宅美子さん、お箏の吉原佐知子さん、そして私の純正律音楽研究会の三人官女は、純正律の会員で、近江八幡市にお住いの西山邦雄さん、西山義己さんのお骨折りで11月11日に近江八幡市にある安土文芸セミナーヨにてコンサートをさせていただきます。

そして、11月25日は、三宅さんの出身校の駒場高校の同窓会[駒場松桜会]の主催で、オペラシティリサイタルホールでのコンサートです。

人間は人の間と書きます。決して1人では生きられません！
そして世界中の人たちの中で出会える人の数は決まっているらしい。
今回のコンサートもご縁の力だと思います。近江八幡の西山さんはもともと三宅さんのお知り合い！駒場松桜会も三宅さんのご尽力によりますが、不思議とみんな赤い糸で繋がっています。

その西山さんの親しい方が、私の親友のピアニスト、児嶋一江さんのご実家のお隣だったり、彼女のコンサートに実は30年ほど前に、西山さんが聴いていたり、本当にびっくりします。

実は先日イツァーク・パールマンのコンサートに家族で出かけました。私たちの席のお隣には、なんと！純正律研究会の理事を務める、武内重親さんがお座りになっているではありませんか...
完売でしたので、あの大きなサントリーホールの大ホールにいらした2000人のお客様と会う約束をしてもなかなか会えないのに...！まさかお隣とは...本当にびっくりしました。

いろいろな方とお話をしているうちに、本当に赤い糸で繋がっている場合が多く、びっくりの連続です。純正律音楽研究会を通して、おかげさまで本当にたくさんの方々との出逢いがありましたし、あります。

9月16日のヤマザキパン総合クリエイションセンターのコンサートも会員の齋藤昌男さんのご紹介！

しかし、この世の中最近では、良いご縁ばかりではないようです。痛ましい事件に巻き込まれたり、災難にあつたり、運命の力もあるかもしれません。良いご縁がいただけますように、日頃から感を研ぎ澄ましていきたいものだと思うこの頃です。

そのためにも、美しいハーモニーを奏でる大切さも感じています。
これからも純正律の響きがこの世の中を平和にすると信じています。

さあ！ますます素敵なお縁をいただきましょう。

ムッシュ黒木の純正律講座 第53時限目

平均律普及の思想的背景について(42)

純正律音楽研究会理事 黒木朋興

このところ数回、〈神〉をテーマに西洋の文化を説明している。今回は選挙の後ということもあり、政治のことに触れつつ〈神〉の問題を考えてみたい。

正直、日本人には民主主義は無理だったということなのか、と思っている。

前回、西洋が「神中心」の社会から「人間中心」の社会へと変化を遂げた話をした。人生の目的が死後に天国に行くことであり、現世における生命よりも神への忠誠心が尊重されるのが神中心の社会である。対して、とにかく今ここに生きている人間の生命を大事することを第一に考え人権の思想を定着させ、神ではなく人間が主役である社会を目指すのが西洋モダン民主主義である。

人間の手で人間のための政治を実現する、というこの理想は確かに素晴らしいが、西洋が19世紀以降歩んできた道は決して平坦ではなかった。それどころか二度の世界大戦とナチスによる強制絶滅収容所という事態を引き起こしてしまったのである。ナチスとは「国家社会主義ドイツ労働者党」の略称であることを思い出しておきたい。現在では悪の代名詞としての扱われる「ファシズム」も、西洋人が人間中心の社会を作ろうとしてたどり着いた一つの政治形態であったのである。神の代わりに民衆を導いてくれる英雄を見出し、その人物に過剰な権力を与えた結果、無茶苦茶な独裁体制が出現したということだ。もちろん、このファシズムに対極的な位置にありながら同種の社会へと成り下がったのがスターリンによる共産主義であることは言うまでもない。

現在の西欧の民主主義が完璧なものだとは言いつもりは全くない。それどころか神ではない人間が完全な社会を構築できるべくもないし、だからこそ日々の努力で自分たちの社会を良いものへとしていかなければならないのだ。また一度努力を怠れば再び全体主義の恐怖が席卷することになるかもしれないということが、西欧では確認されている。だからこそ教育が重要なのであり、そういう教育を受けた人間が知恵を出し、議論を重ねることによって社会を維持していこうというのが西欧民主主義の基本だと言っても過言ではない。

西欧人がイスラーム文化に対して過剰に反応するのも、確かに差別的要素が全くないわけではないのだが、何より神に対する恐れが大きいのだということ指摘しておきたい。ライシテの名の下に決して神中心の社会を復活させてはならないのだ、という強い思いがあるのである。

フランスに住んでいた頃、ライシテの名の下にイスラームの女性が学校でヴェールを身に付けることを禁じる法律に関して、何人かのフランス人と議論を

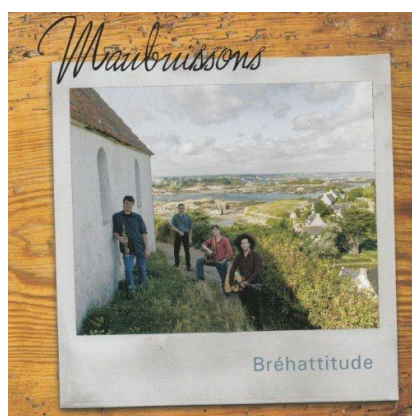
したことがある。彼らは民主主義を守るためにはライシテの原則を守り神中心の原理を社会に持ち込ませないことが大事だと主張した。神中心の思想と民主主義が両立できるなら、そのように考えるイスラーム教徒がそういう社会を築けば良いじゃないか、わざわざフランスまで来てやって困る、と、そういう考えだろう。「日本のことは民主主義を達成し、科学技術も発展させた国として尊敬している。でも、イスラーム圏でそんな国あるか？」とあるエンジニアの友人は言葉を結んだ。思想的には左であり、また教養の高い人であった。

実際、イスラーム圏出身の友人には度々「日本はキリスト教圏以外の国で科学技術を発展させ民主主義を達成したすごい国だ。我々の国をそうするにはどうしたら良いと思うか？」と聞かれた。彼らのうちには、かつての西洋諸国による植民地支配に対して強い抗議の見解を持ちヨーロッパ中心主義を憎みつつも、しかし母国では民主主義を信奉するが故に反体制主義者と見なされヨーロッパに移り住むことを余儀なくされたものも少なくない。

そんな時、自分が日本人であることを少なからず誇りに感じていた。しかし、最近、その誇りは諦念へと変わりつつある。神を乗り越えて民主主義を確立したわけではないこの国では、民主主義は定着しないのかもしれない、と感じている。民意でもって人権を尊重する民主主義を選ばない、ということであれば、民主主義社会においてはそれに対抗できる方法がないということになるからだ。

やはり民主主義は西欧だけのものだったのだろうか？

CD レビュー 純正茶寮
『Bréhattitude』
純正律音楽研究会理事 黒木朋興



『Bréhattitude』

Maubuissons

レーベル: Bemol Productions

ASIN: B00CWPF1JE

5、6年前になるだろうか？フランスはブルターニュの軍港都市ブレスト近郊にある Magma のサウンドエンジニアのオリエのうちに初めて訪れた時、彼に紹介されたクラリネット奏者のフランクに直接もらった CD である。

ケルト音楽と言っても、UK のそれと違ってハモリを重視するというよりは、リズムに特徴がある。基本的に舞曲として発展してきたからなのだろう。

とは言うものの、モード音楽であるし、基本的にリードを取っているのがクラリネットという木管楽器なので、微妙な音程の操作が耳に優しい。

ブルターニュの音楽と言え、この間、やはり管楽器奏者のユンが日本に遊びに来た時、前にこの欄で紹介した『Ostinato』でのヤニクのサクスを聞きながら、ブルターニュの管楽器奏者は独特なキーの使い方をするのですぐわかる、と言っていたのを思い出す。多くの奏者が若い時期にブルターニュの伝統楽器であるボンバルド（＝チャルメラ）を吹いていた経験があるので、楽器が変わってもその奏法を引き継ぐのだと言う。私自身は管楽器のことは全くわからないので想像するべくもない。CD で演奏を聴いただけでわかってしまうのはすごいな、と思うのみであるが、地域に根ざした文化と今現在が融合して新しい文化を作っていく様に心が動かされる。

ブルターニュの先端から望む大西洋の青と海から吹いてくる潮風を思い出した。

**連続 6 回ドラマ音楽の現場
最終回 CM、その他のジャンル**

玉木宏樹遺作

ここ 20～30 年の間に確立された CF（コマーシャルフィルム）に於ける音楽の位置はどんなものだろう。TV 用の CF の場合（今はフィルムではなくビデオが増えてきているが）、明らかに映像に付けるのだから、広義にはドラマ音楽に入れてもいいのだろうか？

何となく違うような気がする。だいいち、CF にはほとんどドラマ的要素がなく、はなはだしいときには、動くポスターでしかないときもある。まあ、映像音楽には違いないのだが。

ドラマ音楽と最も違う点はなんだろうか。

私が始めて CF 音楽の注文を受けたときは、すでに映画を何本かやっていた直後だったので、いとも簡単に劇伴の延長だというくらいにしか考えなかった。こ

れは大失敗だった。
映像を見る、
打ち合わせをする、
狙いをきく、
どんな傾向の曲にするか話し合う、
作曲する、
自分ではいいものが出来たと思いこんでいる、
しかし何となく評判が悪い.....。
要するにおとなしやかで迫力がなく、面白くないというのだ。
何度かやっていくうちに分かったことは、CM の場合、音楽が遠慮してはいけないということだった。
極端にいうならば、ドラマのトイレタイムに相当する CM というもの、トイレの中の人間にもハッとさせるような自己主張の激しいサウンドをもっていなければならぬのだ。
今でも TVCF の大半は 15 秒形である。この 15 秒の電波料のために莫大なお金を払っている企業としては、それに寄せる期待度には凄まじいものがあるのは当然のことだ。
フィルムで作成した 15 秒のものは、音を出す機構上、前後に 1 秒半の音のない部分が必要なので、実質的に音楽に使えるのは 13 秒半しかない。
さてこの世の中、13 秒半で何ができるだろう.....。
ちょうど 13 秒半のパフォーマンスというものがある。それは野球で一番足の早い選手のベース一周だ。
これを早いと思うか遅いと思うかは人それぞれだろうが、たいいていの人にとって 15 秒なんて、あっというまにすぎ去ってしまう。
むかし、松竹映画全盛の頃の作曲家はよく、1 小節 5 秒の 4/4 の曲を書いていたという。そんなテンポでは 3 小節も書けないから、よほどひねったサウンドでなければ 15 秒 CM にはならない。
こんなこともあった。
30 秒の作品だったが、おしまいに入るロゴ（商品名の歌いこみ）をのぞいた部分を大体三等分して、頭がバッハ風クラシック、中がモダンジャズ風、最後が激しいロックという軽業的な注文をされたのだ。これなどは特に 2~3 小節で明らかにそれと分かるサウンドとフレーズを用意しないと、役にはたたない。
うら話的技術論を一つ。TVCF の一番多いタイプは 15 秒で、つぎに 30 秒、60 秒タイプとなる。一つの CF でこの 3 タイプをつくることはよくある。
フィルムの場合、前後に 1 秒半の空白（<ス>とか<ノンモン>と言う）が必要なので、60 秒ならば 58 秒半、30 秒なら 28 秒半、15 秒は 13 秒半しか使えない。
同じ内容で秒数違いのタイプを録音する場合、同じテンポでうまく省略していかねばならないのである。
4/4 で 4 小節単位のフレーズが音楽の基本と考えると、この場合の標準的テンポはというと 4 小節 7 秒、つまり四分音符=135 くらいになる。この計算でいくと、58 秒半の場合、8 フレーズ+イントロ、28 秒半の場合 4 フレーズ、13 秒半の場

合 2 フレーズ弱となって、タイプごとのテンポの統一がとれるのだ。
私は一時、この CM 的テンポに染まり切ったときがあった。なんでもテンポが早くなってしまったのだ。
最近ではビデオの作品が増えてきてノンモンは 0.5 秒くらいになったし、むりやり時間内におさめるといふ不自然さを嫌って、音楽途中で FO (フェイドアウト) することが多くなったので、もうこの CM 的テンポというものも過去のものとなりつつあるようだ。
CM 以外のジャンルでも、ドキュメンタリー作品や科学映画、企業 PR 映画やビデオといった分野は、だいたい映画音楽と似たりよったりだが、最近、イメージビデオというのがはやりだして、けっこう長い作品が、非常に感覚的な手法による、つまり CM 的な演出のものが増えてきた。
せりふや説明や効果音など一切なく、映像と音楽だけの世界である。
ここにはもう、法則などはあつてなきがごとくで、どの「絵」にどの音楽が合うかなんてことは、ほとんど「好み」の世界で決まってしまうことが多い。
私は昔、TV のプロレス番組の音声を消してバッハの音楽を流すのが好きだった。このなんとも妙ちきりんなミスマッチは、非常に刺激的なペース感をかもしだしたものだ。

最近ではコンピュータ・アートが盛んだが、どうしてもビジュアル部分のテクノロジーが先行している。
その一部を見ても、いまの編集機能は驚くべきものであり、将来的には人間の時間感覚を変えてしまうようなインパクトをもつかもしい。
そのときに遅ればせながら開発された、未来の音声処理とのドッキングはどうなっているのだろう。
興味深いと同時に空恐ろしさをも感じてしまう。

イスラームについて(1)

純正律音楽研究会 正会員
弁護士 齋藤昌男

1. 緒論
2. イスラームを知るための基本用語
3. 世界三大宗教の一つ
4. イスラームとは何か
5. イスラームの信仰
6. 二大宗派・スンニー派とシーア派
7. スーフイズムについて
8. ジハードについて
 - (1) ジハードの本来の意味
 - (i) 定義

- (ii) ジハードであれば人を殺しても良いのか
- (2) ジハードを名乗るテロをどう考えるべきか
- (3) ジハード主義の誕生
 - (i) ソ連軍のアフガニスタン侵攻
 - (ii) アルカイダの誕生
 - (iii) タリバンの誕生
 - (iv) 湾岸戦争と米軍のサウジアラビア 駐留
 - (v) I S (イスラーム国) の誕生
- 9. ムスリムの生活の実態はどうか
(ここまで今回、以下の目次は次回)
- 10. イスラーム世界に宗教会議が存在しない
- 11. イスラームに信教の自由が存在するか
- 12. 何故イスラーム商人たちは「資本家」になれなかったか
- 13. 日本人はなぜ勤勉か (日本人はなぜ資本主義を成功させたか)
- 14. イスラーム諸国の近代化は可能か
- 15. イスラーム法について
- 16. 井筒俊彦博士について

1. 緒論

日本に住んでいると、イスラームの人々に会うのは極めて稀であります。その稀ななかにも、筆者にとって忘れ得ない経験が2回あります。

- (1) 2005年(平成17年)に、東京の渋谷区青葉台に不動産を所有しているカリマンタン(ボルネオ)島のブルネイ王室の第3皇子と交渉するためブルネイを訪れました。京都の不動産業者と現地でおちあい、食堂で打ち合わせをしていたところ、当方の一人の者が煙草を吸いたいと言うことで、玄関の方へ出て行きました。連れの方が飛んで来てすぐ来てくれと言う。行ってみると、「ラマダンの最中に煙草を吸ったので逮捕する」と言っている。正直なところ衝撃が走りました。逮捕すると言っているのは religious police (宗教警察) だと言う。私達は日本から来たばかりで、ラマダンの最中である事を何も知らなかったこと。次の日にブルネイ王室の第3皇子に会い、第3皇子が日本に持っている不動産の事を話し合うために来たので、次の日に不動産業者がいないと第3皇子に迷惑がかかる事を説明して、何とか釈放してほしいと懇願しました。日没も近く、ラマダンもすぐに終るとのことで、またブルネイ王国の第3皇子に会うと言った事が利いてか、兎に角、釈放してくれました。
- (2) もう一つ忘れ得ぬ経験があります。今から40年以上も前の事であります。弁護士になりたての頃、私のボスはなぜか、レバノンやシリアのユダヤ人やアラブ人の事件を多く筆者に割り当てました。当時は、物さえあれば、飛ぶように売れた時代です。特に、日本の家電製品、ラジオやテープレコーダーが良く売れました。あるシリア人の社長の輸出商社を担当しました。筆者と打ち合わせしているときに電話が掛かると、シリア人の社長は、“Are you making money?”などと平気で言うておりました。とにかく、色々

とひどい社長でして、当方も大変苦勞をしました。しかし、日本人の社員が言うには、ひどい社長であるが一つだけ感心することがあると言います。何だと思ったら、社長は1日に5回、メッカの方向に向って、お祈りだけは必ずすると言うのです。これだけは絶対に欠かした事がないそうです。

- (3) 実は、この2つの話題のなかに、イスラームの特徴がはっきりと表れています。即ち、イスラーム教は、規範宗教だと言う事があります。規範（ノルム）とは、「これをしろ」「あれをするな」という命令（禁止）であります。キリスト教には、この規範が全く存在しません。これに対してイスラーム教は規範だらけ、規範なくしては、イスラーム教ではないと言えます。
- (4) 序に仏教について申し上げれば、仏教は本来は規範宗教でありましたが、鑑真が持ってきてくれた戒律をすべて廃止したのは、伝教大師最澄です。戒律を廃止したことによって、仏教は規範宗教ではなくなりました。この事は、機会があれば、別の機会に述べることにします。

2. イスラムを知るための基本的な用語

(1) ムハンマド

マホメットのこと

(2) クルアーン

コーランのこと

(3) ムスリム

イスラーム教徒のこと

(原語に近い発音をする国際的な流れのなかで、現在は上記の様に発音されております。)

(4) ハディース

ムハンマドの言行録を指す

(5) シャリーア（聖法）

クルアーンとハディースの明文の教え

(6) ウラマー

学者であって聖職者ではない。ウラマーには絶対者と人間を仲介して救済をもたらす権能もなければ、平信徒とは違った特別な戒律もない。イスラームでは、聖職者・僧侶と俗人をいっさい区別しない点もキリスト教や仏教と異なる特徴となっています。

従ってウラマーは、キリスト教の牧師や神父とは違うことに注意されたい。

(7) イジュティハード

明文の典拠が見つからない問題で規定を探すこと

(8) インシャーアッラー

「アッラーがお望みならば」という意味で、ムスリムが未来に何かをする、と言う時に言い添えます。

(9) ウンマ

イスラーム共同体を指す。

(10) スンニー派

預言者の逝去以来のムスリム社会の多数派

- (11) シーア派諸派
スンニー派と同じくイスラーム法を持つのは十二イマーム派とザイド派
- (12) カリフ
スンニー派ムスリムの最高指導者。
シーア派は別ですが、イスラーム世界全体の政治的最高権威であり、6世紀にわたって、1924年まで続きました。しかし、オスマン帝国の解体によって廃止されてしまいました。しかし、たとえカリフ制が復活したとしても、カトリック教会のローマ法王、プロテスタントの世界教会協議会(WCC)の様な権限を期待することは、全く出来ません。ここに、今の時代の問題があります。
- (13) モスク
砂漠や空き地であれ、清浄で礼拝ができる場所は全てがモスクであり、キリスト教の教会とは全く異なります。
- (14) ハラールとハラーム
「合法的なもの」と「禁じられたもの」
- (15) ラマダーン
1ヵ月にわたる齋戒と啓示の月
- (16) ヒジュラ
ムハンマドがマッカから第二の聖地マディーナに聖地を移したことをヒジュラ（聖遷）と言います。
- (17) ジハード（聖戦、義戦）
原義は、神のために自己を犠牲にして戦うこと。詳細は、別途論じます。
- (18) ジャーヒリーヤ時代
前イスラーム時代。預言者ムハンマドによってイスラームが布教される以前の無明時代。考古資料、碑文等を除けば、この時代を知る手がかりの多くはジャーヒリーヤ詩にあり、詩人たちの活躍した5世紀半ば以降の時代をさすことが多い。
- (19) スーフイー
イスラーム神秘主義。詳細は、別途論じます。
- (20) 啓典の民
アッラーから下された啓典を奉ずる信仰共同体を意味し、キリスト教徒が聖書を持ち、ユダヤ教徒が旧約聖書を持っているので、地租と人頭税さえ納めれば、彼等を啓典の民と呼んで庇護民として生命・財産の安全と信仰の自由を保障することにしています。
さらに後代のムスリムは、自ら征服者・支配者としての特権を守るために、征服地の全ての異教徒を庇護民として扱うことで、税収の確保を図っています。
3. 世界三大宗教の一つ
- (1) 世界三大宗教と言え、日本人は、仏教、キリスト教、イスラーム教と言うでしょう。しかし、イスラーム教徒に聞くと、ユダヤ教、キリスト教、イスラーム教と答えるでしょう。セム的人格一神教とは著しく性格を異に

する仏教が、イスラーム教徒からすれば、宗教と言えるか疑問だからです。イスラームの立場からすると、ユダヤ教、キリスト教、イスラーム教は一連の宗教です。人類の歴史の流れからすると、これら三つの宗教は、時代と場所を異にして現れた一つの宗教が貫通しているものとも言えると思います。

現在、キリスト教徒は、世界人口の約3分の1、イスラーム教徒は世界人口の約5分の1を占めています。しかし、キリスト教とイスラーム教は、全世界で対立している様に見える事は、まことに不幸な事です。

(2) セム的人格一神教の成立過程

起伏の激しい荒野であり、厳しい砂漠性気候の大地であるカナンの地（現在のイスラエル・パレスチナ）をめざして紀元前13世紀頃にエジプトを脱出した古代イスラエル民族は、紀元前6世紀頃にユダヤ教国としての在りようを確立しました。

イエスの時代のパレスチナでは、貧富の差が激しく、多くの人が貧困にあえいでいました。本来ならば、貧困に苦しむ人々を救う筈のユダヤ教は形骸化し、律法厳守や儀式執行に明け暮れていました。貧困や病気のせいで律法や礼拝を守れない人々を救うために立ち上がったのがイエスでした。イエスの公的・宗教的な活動は、その様な状況への激しい切り込みとして、実行されたのです。

イスラーム教の祖である預言者ムハンマドは、アラビア半島の聖地マッカで西暦570年頃に誕生しました。ムハンマドがマッカでイスラーム教を創始し、マディーナでイスラーム教団を組織したことで、アラブ民族は初めて民族的統一を実現しました。ムハンマドがマッカから第二の聖地マディーナへ「ヒジュラ（聖遷）」を決行したのが622年で、イスラム歴起源の年でもあります。

(3) イスラーム文化の国際性

ひと昔前、サラセン（Saracen）という言葉をよく耳にしました。サラセン帝国とは、7世紀から13世紀にかけて、西アジアを中心に西はスペイン、南はアフリカ、東はインドにかけて成立したイスラーム教を奉ずる大帝国のことを言います。

ムハンマドに最後まで抵抗して降伏、改宗したウマイヤ家のムアイヤ（在位661－680）が、シリアのダマスカスに都してウマイヤ朝（Umayyads）（661－750）を創始しました。8世紀前半には、スペインからインドス河谷にいたる帝国最大の版図を領有するアラブ民族最盛期を現出しました。

イランでは、イラン人改宗者の支持の下に革命が勃発してアッパース朝（Abbāsids）（750－1258）が成立、バグダートに都しました。（但し、アッパース家のカリフが、宗教的にも政治的にも最高の指導者・権力者として統治し君臨しえたのは、せいぜい945年まで、その後は宗教的権威のみ保持。）この時代はイラン的色彩が強く、アラブ民族至上主義を克服して世界主義的イスラーム社会を構成し、政治・経済・文化の面で世界の中心となりました。しかし、モンゴルの侵入によってアッパース朝は滅

亡となります。

4. イスラームとは何か

近代日本のイスラーム研究の嚆矢となったのは、一時東京裁判の被告となった大川周明氏であります。それに継ぐ第1人者は、何と言っても井筒俊彦氏でありましょう。2人とも故人となりましたが、井筒俊彦氏には、中公文庫に「イスラーム生誕」と題した文庫本があり、同書の第2部にイスラームとは何かと言うのが、あります。どの類書よりもこの小論文は、突っ込んだ事が書かれており、その一部のさわりだけでも、下記に紹介したいと思います。

(1) イスラームとジャーヒリーヤ

(i) 「イスラームが興ったのは西暦七世紀前半のことである。イスラーム自身の見地からいうと、それを機として人類の歴史はイスラーム期に入る。そして、それに先行する時期—無始なる過去まで遡る無限に長い期間—を「無道時代」(ジャーヒリーヤ)と呼ぶ。(略)

いずれにせよ、イスラームの見地からして、人類の歴史はイスラーム生誕という一つの歴史的イベントを転換点として、截然たる二つの時期に分れ、イスラームとジャーヒリーヤは対立する。」(同書117ページ、最後の行以下)

(ii) 「すなわち、ジャーヒリーヤとは、部族社会機構を神聖犯すべからざるものとして尊重する沙漠的アラブの見地からして、『高貴なる男子の高貴なる性』と認められた不羈独立の精神を指すということ。部族伝来の規律のほかには、いかなるものの権威—それが人間の権威であれ神の権威であれ—の前にも絶対に身を屈しない沙漠的男子の気魄、それが一言でいえばジャーヒリーヤなのだ。」(同書120ページ、7行目以下)

(2) イスラーム—実存的飛躍

(i) 「イスラームという語の最も基本的な意味は、無条件的な自己委託、自分を相手に引き渡してしまうこと。自我の意志・意欲に由来する一切の積極的な心の動きを抑え、自分を完全に放棄して、すべて相手の意のままに任せきることである。勿論、宗教的コンテクストにおいては、自分をこのようにゆだねる相手は神である。すなわち、断乎として自我の意欲を切り棄て、すべて神の心のままにうち任せ、神のはからいがどうあろうとも、その結果の好悪については敢えて問うまいと言う主体的態度をそれは意味する。一言をもってすれば、神への絶対無条件的な依存の態度である。」(同書123ページ、最後の行以下)

(ii) 「この新しい『イスラーム』の意味構造ではイスラーム(引き渡し)という内的行為の主体は人間であり、それを受ける相手は神、そして引き渡される貴重品は人間の自我である。つまり、人間が彼にとってかけがえのない大切なものである自分自身を、そっくり神に引き渡すこと。自分に関わる一切を神の手にゆだねて、なんでも向うのなすがまま。これがイスラームという宗教における宗教的実存の最も根本的な姿勢である。そしてこのように自分をすっかり神に任せてしまった人

を「ムスリム」(muslim)という。」(同書125ページ、最後の行以下)

(3) 宗教共同体の成立

引き続き前掲書のさわりを引用します。

- (i) 「歴史的宗教として世界的・普遍的宗教に向うイスラームのこの成功の背後には、強固な宗教共同体の成立があったのである。宗教共同体の成立はメディナ朝、すなわちムハンマドの預言者活動の後半期を特徴づける最も重大な事件である。今日我々が「イスラーム文化」と呼ぶ事象の一切がここに端を発する。」(同書163ページ、終りから2行目以下)
- (ii) 「宗教共同体——アラビア語では『ウンマ』(ummah)という。この言葉は現在では例えばアラビア民族とか日本国民とかいう場合の民族、国民の意味に普通に使われているが、本来的には、血筋で統一された人間の集団ではなくて、政治的・宗教的イデオロギーの下に統一された大きな団体を指す言葉である。」(同書164ページ、10行目以下)
- (iii) 「こういうジャーヒリーヤの部族社会的構造に、イスラームの宗教共同体の理念は真正面から衝突した。なぜなら、この新しい宗教は、血族関係の重要性を頭から否定して、そのかわりに、信仰の共有を人間の社会的統一の原理として宣言したからである。人々を秩序ある集団にまとめ上げ、その統一性を保持するものは、もはや『血』の共通性ではなくて、宗教的な『信仰』の共通性であるとされた。」(同書167ページ、8行目以下)

5. イスラームの信仰

スンニー派は、イスラームの教えの基礎を六信五行(ろくしんごきょう)にまとめています。

(1) 六信

① 神

イスラームの第1信仰告白句は、「アッラーの他に神はない」です。

② 天使

ゾロアスター教、ユダヤ教、キリスト教でも信仰されていた天使は、イスラームでも信仰の対象です。

③ 各種の啓典

クルアーンの中で名前が挙げられている啓典は、イブラーヒーム(アブラハム)の「諸書」(スフフ)、ムーサーの「律法」(タウラー)、ダーウード(ダビデ)の「詩編」(ザブール)、イーサー(イエス)の「福音書」だけです。

④ 預言者たち

⑤ 来世(らいせ)

最後の審判が何時であるか誰にも分からない。

⑥ 神の予定(天命)

森羅万象は全て神によって創造以前から知られ、予定通りに進行する。

(2) 五行

① 信仰告白

アッラーのほかに神はなく、ムハンマドは神の預言者

② 礼拝 (れいはい)

物事の初めはイスラームであり、その支柱は礼拝

③ 喜捨 (ザカート)

一年を通じて一定額の資産を保有した者にかかる定率の宗教税

④ 断食

断食とも訳されるが、齋戒 (サウム) とも言う。原義は「慎み避けること」

⑤ 巡礼 (ハッジ)

マッカ巡礼の実践で、マッカのハラームモスクの礼拝は、普通のモスクの礼拝の10万倍の功德があるとされておりま

(3) 五行以外のおもな規範

- ・賭けごとをしない
- ・酒を飲まない
- ・豚肉を食べない
- ・利子をとらない
- ・殺人をしない
- ・秤^{はかり}をごまかさ^{きよ}ない
- ・汚れから身を浄める
- ・女性は夫以外の男性に顔や肌をみせないよう、チャドルで隠す
- ・結婚は商取引と同様に契約を結ぶ。平等に扱うことができるのなら、4人まで妻をもつことができる

6. 二大宗派・スンニー派とシーア派

- (1) イスラームの宗派は、大きく「スンニー派」と「シーア派」のふたつに分かれます。中東の国々の全人口に占める各宗派の割合を見ると、次の様

スンニー派 約84パーセント

シーア派 約14パーセント

そのほか 約2パーセント

- (2) この内シーア派がスンニー派より多いのは、アゼルバイジャン、イラン、イラク、バーレーン、レバノンの5カ国であります。
- (3) ムハンマドが後継者を指名しないままに没したため、教団はムハンマドの義父であったアブー・バルクをひとまず後継者としました。ところが一部の教徒のなかにはムハンマドの後継者は、直接血のつながった者であるべきと考える人達もいました。そこでムハンマドのいとこであり娘婿 (ファティマの夫) のアリーが押されましたが、3代目の後継者まで、ムハンマドの血縁者が後継者に選ばれることはありませんでした。アリーがイスラームの後継者に選ばれたのは、ムハンマドの死から24年後でした。しかし、数年後にアリーは暗殺されてしまいました。これを契機として、イスラームは、世襲にこだわらずに、もっとも適した人物が指導者となるべきとするスンニー派と、アリーの子孫だけに後継者の資格があるとする

シーア派に分裂しました。

- (4) 「シーア」とは、「党派」という意味で、当初は「シーア・アリー（アリー
の党）」と呼ばれていました。従って現在でも、単に「シーア」と言う
のが正式な呼び方とされています。一方「スンニー」とは「慣行」と言う
意味で、「慣行」とは、ムハンマドの生前の言動を大切にし、それに従う
ことを指します。
- (5) ここまでは、どの解説書にも書かれていることであります。しかし、一
歩深く入っていくと、宗教としても文化としても、イスラームは、根源的
には一つの統一的構造体であります。この根源的統一体が二つのまるで
違った、いわば正反対の顔を見せるといいます。「だが、また逆に言えば、
こうしたイマージュの二重写しのうちにこそ、イスラームの根源的統一性
が現れるのであって、この様な経験を経ることなしには、イスラームとい
うものを理解することはできない。」(井筒俊彦著「読むと書く」((井筒俊
彦エッセイ集)) 173ページ) と言っています。
- (6) 明快で男性的な、積極的な宗教として、現実主義的な、イスラームの根
本的な性格は、普通西洋で正統派（オーソドックス）などと呼ばれている
スンニー派の特徴であります。人種的に言えば、主としてアラブのイスラ
ームの特徴であります。これに対立して、イスラームのもう一つの顔を代
表するペルシャ的、イラン的形態であるシーア派のイスラームがあります。
スンニー派とシーア派の対立がイスラーム文化を二つに分けます。勿論、
アッラーが唯一絶対の神であるとか、ムハンマドが神の預言者であり使徒
であるとか、コーランが神の言葉であるとか、イスラームの根本信条は完
全に一致していますが、その他の点については、重要な点では、両者の精
神はまるで違っております。

イスラームにおいては、シャリーア（律法）こそウンマ（イスラム共同
体）の宗教そのものであります。シーア派もシャリーア（律法）は否定し
ません。しかし、シャリーアを取扱う主体的態度が違います。つまりシャ
リーア即宗教、ではないのです。

シーア派的観点からすれば、シャリーアは、宗教の可視的な外側、表面
であり、法的規範の内側にひそむ精神的リアリティに、イスラームという
宗教を生きた宗教たらしめる真の宗教性があると、言うのです。宗教だけ
ではなくあらゆる事についてシーア派的イスラームは、内面的なリアリ
ティを問題とします。すべてのものの不可視の深層にひそむこの内側を「ハ
キーカ」と言っています。あらゆるものについて、その真のリアリティー
は表面ではなく内側にあると考えるのです。

この内面性の重視、内面への道の選びにおいて、シーア派は、後に述べる
スーフイズム（イスラム神秘主義）と完全に一致するとされています。

7. スーフイズム

- (1) 「スーフイズム」とは、イスラームの内部に起った神秘主義を指す西欧
の用語です。諸説があるようですが、「スーフ」とは羊毛を意味します。
従ってスーフイーとは羊毛を着た人を意味します。昔のアラビアでは、羊
毛の粗衣は、下層社会、極貧者、奴隷、囚人等の衣であり、イスラーム発

生の以前からアラビア半島の砂漠の奥地に庵をむすんでいたキリスト教の隠者、修道士の衣服でもありました。

スーフイズムの原点は、当時イスラームの思想界に流入してきた新プラトン思潮であり、当時の中近東一帯に広がっていたグノーシス的秘儀宗教や、インドの宗教哲学、仏教などがあります。

(2) スーフイズムは、当初、世を憂える一部のエリートの運動であったと考えられます。彼等は、外面的な法規定（シャリーア）に飽きたらず、自省的な内面探求の道を進み、真理（ハキーカ）に到達することをめざしました。しかし、こうした内面的宗教、内面化された宗教を第一義的なものとする人達は、法至上主義、即ち宗教としてのイスラームをシャリーア（法規定）と同一視し、法即宗教と考える律法的精神に反発して激しく対立することになりました。「それがいかに激烈な、というより惨烈な対立であったことか。計り知れない命がそのために失われ、イスラーム文化を紅に染めました。イスラーム文化の苦渋に満ちた陰鬱な側面であります。」（井筒俊彦著作集2 イスラーム文化—その根底にあるもの— 314ページ、13行目以下）

(3) 井筒俊彦博士は、同じイスラーム文化—その根底にあるもの—350ページ、1行目以下で、次の様に述べています。

「第一にシャリーア、宗教法に全面的に依拠するスンニー派の共同体的イスラーム、第二に、イマームによって解釈され、イマームによって体现された形でのハキーカに基くシーア的イスラーム、そして第三に、ハキーカそのものから発出する光の照射のうちに成立するスーフイズム、この三つのうちのどれが一体、真のイスラーム的一神教なのか。それぞれが自分こそ真のイスラーム的一神教を代表するものだと言主張して、一步も譲りません。イスラーム文化の歴史は、ある意味ではこれら三つの潮流の闘争の歴史なのであります。しかし、外から客観的に事態を観察することのできる立場にいるわれわれとしては、それらのなかのどの一つがというのではなしに、要するにイスラームとはこういうものなのだ、つまりこのような相対立する三つのエネルギーのあいだに醸し出される内的緊張を含んだダイナミックで多層的な文化、それがイスラーム文化なのだ、というふうを考えていくべきではなかろうかと思えます。」

(4) 以上、三つの違いを図表にまとめると次の様になります。

スンニー派	シーア派	スーフイズム (イスラーム神秘主義)
○主としてアラブ系 ○シャリーアこそウンマの宗教そのもの	○ペルシャ的、イラン的形態 ○シャリーアは否定しない。シャリーアは宗教の可視的外側、表面 ○内側に永遠に不変不易の精神的実在があ	

<p>○現世に対して肯定的 (神の意志に従ってとは)</p> <p>○シャリーアに従う (世界の歴史的展開に対する見方)</p> <p>○原則として回顧的、過去志向的 (イスラム法学者の法解釈の自由、イジュティハードという)</p> <p>○イジュティハードの門が閉されたのは、西暦九世紀 個人の自由な法解釈停止</p>	<p>る。</p> <p>○内面への視座</p> <p>○不可視の深層にひそむ内側をハキーカという。</p> <p>○現世に対して肯定的</p> <p>○ハキーカに従う</p> <p>○未来志向的</p> <p>○イジュティハードの門はいまでも開かれている。その都度、律法を自由に解釈する。</p>	<p>○シーア派の人が圧倒的に多いが、スンニー派の人もいる。</p> <p>○現世に対して否定的</p>
--	---	--

8. ジハードについて

(1) ジハードの本来の意味

- (i) 今日、ジハード程、誤解されている概念はないのではないのでしょうか。「アッラーは偉大なり」と叫び、自爆してゆくテロを称して、ジハード(聖戦)だと言っています。迷惑千万な話です。

岩波イスラーム辞典(439ページ)は、以下の様に定義しています。「『ジハード』 聖戦、義戦。原義は神のために自己を犠牲にして戦うこと。出典はクルアーン(悔悟章)の〈己の財産と生命をなげうって奮闘した者は、神の目からは最高の地位にある〉[Q9:20]など。スーフイズムでは、自己の信仰を深める個人の内面的努力を『大ジハード』、武器を取る戦いを『小ジハード』という。

ジハードは、信仰とウンマ(イスラーム共同体)の防衛・拡大のためにウンマに課せられた連帯的義務であり、健康な成人ムスリムがカリフ(ハリーファ)またはスルタンの指名により従軍する。敵の侵略などに際しては、郷土防衛の個人義務(ファルド)が生じる。ジハードの戦死者には殉教者として樂園が約束されている。対外戦争としては、カリフにより宣戦が布告され、敵方の改宗や停戦協定によって終結する。信仰の保障・庇護を受けている啓典の民はジハードの対象とはならない。ムハンマド存命中のジハードはおおむねウンマ防衛の

性格が強かったが、正統カリフ時代以降、ジハードによる大征服が進められ、『イスラームの地 (ダール・アル=イスラーム)』が拡大した。中世の防衛的なジハードとしては、十字軍やモンゴル軍に対するものがある。」

- (ii) ではジハードであれば人を殺しても良いのか。

「イスラーム 生と死と聖戦」(中田考著 集英社新書 29 ページ) は、次の様に言っている。

「そして、イスラーム法の根拠となる『ハディース』においては、敵を焼き殺すことは禁じられています。ところが、現代の戦争で用いられる兵器は、ミサイル、爆弾、重火器など、どれも人を焼き殺すものばかりです。さらに、空爆によって兵士以外の一般市民も巻き添えにされていますが、これもイスラーム法の見地からは犯罪とされます。つまり、大量破壊兵器を用いる現代の戦争は、あからさまにイスラームの倫理に反するのです。

ですから結果的に、ムスリムにジハードを命じることのできる『真の』カリフを中心にした政体 (カリフ制) が復興したとしても、ただちに非イスラーム世界にジハードを仕掛けることは考えられないのです。」

- (2) ジハードを名乗るテロをどう考えるべきか。

2001年9月11日、アメリカで4機の民間航空機がハイジャックされ、1機目が世界貿易センタービルツインタワー北棟に突入、2機目は南棟に突入、3機目はワシントン国防総省本庁舎に激突し、4機目はペンシルベニア州ピッツバーグ郊外に墜落しました。諸説ありますが、犠牲者数は2977人、負傷者6000人を超えるとされ、日本人も24名が犠牲となっています。

日本のメディアは犯人グループについて「イスラーム過激派」「イスラーム原理主義」「イスラーム急進派」と呼んでいる様です。

- (3) ジハード主義の誕生

ところで、ごく最近、イスラーム過激派について書かれた下記の本が出版されました。

岩波現代全書

ジハード主義 アルカイダからイスラーム国へ

保坂修司著

この著作によれば、イスラーム過激派の思想や運動のことを「ジハード主義者」「ジハード主義」と呼んでいます。そして、下記の定義をしています (同書13ページ2行目以下)。

「では『ジハード主義』とは何なのか。本書ではとりあえず、『武装闘争としてのジハードを行うことをイスラームのもっとも重要な義務の一つと考え、異教徒や不信仰者に対して軍事的な攻撃を実行していこうとする考えかた』というように、ざっくりと定義しておく。」としています。

- (i) ソ連軍のアフガニスタン侵攻

1979年12月24日、ソビエト連邦軍によるアフガニスタンへの軍事介入がありました。当時、アフガニスタンは共産主義政権が支配し

ていました。共産主義政権による宗教弾圧に反対する武装勢力がアフガニスタン各地で政府に対する蜂起をしました。そして、ソ連はアフガニスタン政府の要請を受け、軍事介入し、アフガニスタンは事実上内乱状態に陥りました。米国は、直接ソ連と事を構えるのではなく、CIAを通じて、資金、武器あるいは軍事訓練を提供することによって、アフガニスタンより、ソ連を駆逐しました。しかし、「この事件は単にアフガニスタン一国の問題としてではなく、よりグローバルな問題としてとらえる必要がある。もちろん、米国や西側諸国からみれば、これは米ソ冷戦構造の枠組で考えねばならなかったが、これをイスラーム世界からみると、無神論者である共産主義の総本山としてのソビエト連邦が敬虔なイスラームの国アフガニスタンを軍事占領したという構図に置き換えられる。そして、この構図こそその後のジハード主義の展開に決定的な役割を果たすことになったのだ。」(前掲書29ページ、7行目以下)

(ii) アルカイダの誕生

アルカイダは、ソ連軍によるアフガニスタン侵攻(1979年)に対する義勇兵が始まりでした。ソ連軍が侵攻すると、イスラーム世界各地から義勇兵が隣国パキスタンのペシャワールに集まりましたが、彼らによる自分たちの軍事キャンプの呼び名アルカイダ(基地)がいつの間にか組織名となりました。サウジアラビアの大学で教えていたアブダッラー・アッザームの教え子にサウジアラビアの富豪のオサーマ・ビンラーディンがおり、1989年にアッザームが暗殺されると、オサーマ・ビンラーディンが跡を継いで指導者となりました。

(iii) タリバンの誕生

長期化したアフガニスタン内戦のなかで救国を旗印にして台頭した、イスラーム神学生中心の武装した宗教勢力の事を言います。

ソ連に支援された共産主義政権を打倒したムジャーヒディーン政権が統治能力を失い再び軍閥同士の内戦に陥ったときに世直し運動として始まったもので、当初は民衆から歓迎されましたが、イスラーム法に基づく厳格主義的な支配の行き過ぎで、犯罪行為は減少したものの、シーア派との対立は激化しました。2001年2月のバーミヤーンの巨大石仏の破壊を断行し、国際テロリストの隠匿も行いました。

2001年9月11日のアメリカ同時多発テロが起こると、アメリカが事件の容疑者として、当職タリバンの庇護下にあったアルカイダのビン・ラーディンの引き渡しを要求、拒否されると国連安保理の決議を取り付け、攻撃を開始し、同年11月にはタリバン政権は瓦解しました。

(iv) 湾岸戦争と米軍のサウジアラビア駐留

1990年8月2日、イラク軍が隣国クウェートに侵攻し、所謂湾岸戦争が発生しました。米軍及び多国籍軍は、イラクがさらに軍をすすめてサウジアラビアを侵略するのを防ぐためサウジアラビアに軍を派遣しました。そしてわずか1ヶ月でクウェートを解放しました。

これに対し、当時売り出し中だった法学者サファル・ハワーリは、その著書『イスラーム共同体のウラマーを覆う暗雲を明らかにする』のな

かで湾岸戦争について次の様に論評しているそうであります。

「あれ（湾岸戦争）は、歴史上初めて、ムスリムの統治者の資金で武装し、ムスリムの統治者が準備、執行に参加した十字軍だったのである。それどころか、ムスリムの軍隊とその警察が十字軍を守る盾となっていた」（前掲書77ページ、2行目以下）

(v) IS（イスラーム国）（Islamic State）の誕生

タリバン政権（アフガニスタン・イスラーム首長国）が樹立されると、ビン・ラディーンが率いるアルカイダは、その傘下に入りました。9.11事件（2001年）が起きると、米国は、ビン・ラディーンを庇護していたタリバン政権を崩壊させました。ビン・ラディーンらは地下に潜伏しました。2011年にビン・ラディーンが米国によって殺害されるとジハード団出身のザワーヒリーが跡を継ぎました。そしてIS（イスラーム国）はアルカイダのイスラム支部が、シリア内戦に乗じて勢力を拡大して2014年に分離独立しました。

ISはその前名をIslamic State of Iraq and Sham Islami（ISIS）と言いますが、ISISは2014年6月にイラク第2の都市モスルを陥落させると、6月29日に「イスラーム国」と改称し、カリフ制の再興を宣言しました。

ただ、「国家」としてのモスルの統治を支えたのは、かつてのサッダーム・フセイン大統領を支えた「バース党」の幹部や、当時の軍の生き残りだったと指摘されています、ISがつくった国家では「戦争相」などの重要な仕事を旧イラク軍将校が努めました

然るにモスルについては、2016年10月17日、イラク首相が「モスル奪還作戦」の開始を宣言。2017年7月10日、正式に勝利宣言をしました。しかし、9ヶ月近く続いたモスルでのIS掃討作戦によって市内は廃墟となり、市民から多数の死者が出て、92万人以上が住まいを失っていると、報道されています。

9. ムスリムの生活の実態はどうか

以上を見ると、ムスリムの生活は、堅苦しい印象を受ける人も多いかもしれません。そこで次の実態を書いた文章を引用しておきます。

「ムスリムが常に神の命令に忠実に従っていると考えるのは、実のところ幻想でしかない。日本人はしばしばムスリムを厳格に神の命令に従う人々と思いきみ、テロを含め、あらゆる行動がイスラムの教えに従っていると、餓死する危険があっても豚肉は食べないとかいう類いの『デマ』にだまされやすいが、現実はそのほど単純ではないのである。

今や世界が注目する無利子のイスラム金融にしても、イスラム諸国にあってもさえ、いまだそのシェアは数%から10%、多くて3割程度にとどまっている。逆に言えば、イスラムが禁じているはずの有利子銀行のシェアが今なお圧倒的に多いのがイスラム世界の現実なのである。」

（2017年5月9日 エコノミスト 94ページ）

（以下次号へ続く）

（2017年10月18日脱稿）

今後のスケジュール

【New year concert】

2018年1月27日土曜日 2回公演

昼の部：14時開演(50名様限定)

夜の部：18時開演(50名様限定)

会場：ラリール

出演：水野佐知香(Vn)、三宅美子(Hp)、吉原佐知子(箏)

入場料：3,500円

(会員特別価格 3,000円)

【癒しの音楽コンサート】

2018年5月12日土曜日 18時開演

会場：新宿 角筈区民ホール

出演：水野佐知香(Vn)、三宅美子(Hp)、吉原佐知子(箏)

入場料：3,500円

(会員特別価格 3,000円)



おたより募集!

会報のご感想、ご意見、純正律音楽にまつわること等々、なんでもお寄せ下さい。たくさんのお便りを、お待ちしております。

次号の【ひびきジャーナル】にてご紹介させて頂きたいと思っております。

〒168-0072

東京都杉並区高井戸東 3-2-5-102 NPO 法人 純正律音楽研究会

お電話：03-5317-0291 FAX：03-5317-0289

e-mail：puremusic0804@yahoo.co.jp

http://just-int.com/

平成 29 年 11 月 8 日 発行責任者：NPO 法人 純正律音楽研究会

編集：相坂政夫